

薬剤師が開発した 『がん治療日記シェアアプリ “ribbons”』 薬局のワンランク上の対人業務に威力發揮

2023年9月に医療系スタートアップ企業のRibbons Base（リボンズベース）がリリースしたがん患者らが抗がん剤治療の経過、服薬記録や副作用の状況などを記録して共有できるアプリ「ribbons（リボンズ）」が、がん患者のみならず、保険薬局でも活用できると大きな注目を集めている。10年間の病院薬剤師勤務を経て同社代表取締役として牽引する西川 隆一氏は「がん患者さんが入力した治療日記を保険薬局の薬剤師さんが確認することで体調や服薬状況を一日で確認でき、在宅の状態を把握することで副作用の早期発見・対応が可能になります。ワンランク上の対人業務に威力を発揮するという声をいただいている」と語る。

がん患者と薬剤師の 円滑なコミュニケーションを実現

ribbonsは「がんになっても大丈夫な未来」を目指して開発されたアプリ。がん患者は自身の体調をワンタップで簡単に入力できるほか、メモやブログで症状を細かく記録でき、頓服薬の服用時間や検査結果なども一括管理が可能だ。薬剤師ならではの知見を活かすことで、医薬品ごとの副作用を自動でピックアップし、症状の強さによって病院などへ相談を勧めるアラートも表示される。また、治療に役立つ情報や薬剤師からのワンポイントアドバイスなどのコンテンツが毎日更新される。

さらに、患者自身と似た条件のユーザーのブログを優先的に表示して、SNSのようにスタンプ機能で治療を応援することができるコミュニケーションツールも搭載している。

西川氏はがん専門薬剤師や緩和薬物療法認定薬剤師の資格をもち、病院薬剤師としてがん患者と接するなかで、患者が自らの体調などを限られた診察時間内に的確に伝えることができていない場面を目の当たりにしてきた。そのような状況を開拓したいという想いで起業し、ribbonsの開発に取り組んだという。そして、がん患者が入力した情報を薬剤師などの医療従事者とも共有できるように機能拡充させたことで、より円滑なコミュニケーションを可能とした。



患者から選ばれる薬局へ、 薬剤師のやりがい向上・業務効率化にも貢献

西川氏は「薬剤師の業務は対物から対人へシフトしています。そして近くの薬局よりも、あの薬剤師さんがいる薬局へ行こう、と考える患者さんが増えているように感じます。薬剤師の『個』の価値で薬局が選ばれる時代になりつつあります」と語る。

2024年度診療報酬改定では「重複投薬・相互作用等防止加算」「かかりつけ薬剤師指導料・包括管理料」「外来服薬支援料1」「服用薬剤調整支援料1及び2」といった対人業務へ評価が拡充した。さらに「在宅薬学総合体制加算」や「在宅患者訪問薬剤管理指導料」など、在宅業務や終末期患者へのフォローアップにも重点が置かれた。ribbonsが保険薬局から注目されている理由の1つとして「対人業務に役立つ」ことがあげられる。

「例えば、薬局が患者さんのレジメンなどを把握した上で、抗悪性腫瘍剤や制吐剤などの服用状況や副作用の有無などを患者さんに電話で確認し、その結果を医療機関に情報提供した場合、『特定薬剤管理指導加算2』を算定することができます。ribbonsを活用することで適切なタイミングで患者さんに介入することができ、副作用の早期発見・対応が可能になるなど、患者さん、薬剤師さん、薬局経営者すべての関係者にとって“より価値のある行為”につながります」（西川氏）

ribbonsを活用することで、患者満足度だけでなく、薬剤師のやりがい向上、効率化により算定件数アップにもつながる。また、在宅医療においては、患者の日々の体調変化を把握できるため薬剤師の存在感が増して、多職種とのチーム医療の連携促進にもつながる。

「ribbonsを活用する薬局からは“アプリを通して副作用や問題点を見つけやすくなり、積極的にがん患者さんに介入できるようになった”、“日常のリアルな副作用をすぐに把握でき、より一層患者さんに寄り添った治療支援を行うことが可能になった”など、嬉しいお声をいただいております」と西川氏は語る。

がんと闘うすべての人を支援することを目的に設立されたRibbons Base。同社のribbonsがワンランク上の対人業務をさらにパワーアップさせることが期待される。



株式会社 Ribbons Base

〒441-8113

愛知県豊橋市西幸町浜池333-9 豊橋サイエンスコア109

<https://ribbonsbase.com/>

contact@ribbonsbase.com

TEL : 090-1756-8931

アプリの詳しい機能
ダウンロードはこち

